

議 案 質 疑

③ 一般会計予算中、学校元気アップ事業委託料 279万円

(質疑) 事業の内容は。

(答弁) 各小・中学校の特色ある教育活動はもとより、学校生活の様子や地域ぐるみで子どもを育てる取り組みなどをメディアを通じて広報したい。1年をかけて、佐賀市立の小・中学校全53校を広報する予定。

(質疑) 経費の内訳は。

(答弁) 全額委託費。委託業務の内容は、教育活動の撮影、番組編集、番組放送、撮影補助、ナレーション収録。

(質疑) 事業の効果は。

(答弁) 教育委員会は、地域に開かれた特色ある学校づくりを目指している。学校や児童・生徒、教師、地域住民と連携した特色ある取り組み等を映像を通して広く市民に広報し、保護者や地域住民の学校教育活動への理解を深めたい。

(質疑) 単年度事業か複数年事業か。単年度ならば、事業効果があらわれにくいのではないか。

(答弁) 現時点では単年度と考えているが、学校関係者、子どもたち、保護者の意見を聞きながら、事業の効果・成果を評価し、次のステップを考えたい。

④ 一般会計予算中、橋りょう長寿命化事業 1億8500万円

(質疑) 事業の概要は。

(答弁) 平成22年度に佐賀市橋りょう長寿命化修繕計画を策定した。この計画の中で、老朽化が進んだ58橋について、平成24年度から平成33年度の10年間で修繕を行うこととしている。

(質疑) 平成26年度に調査設計委託が4橋、修繕工事が9橋となっているがどこか。

(答弁) 調査設計委託は①大和町川上の惣座橋②大和町松瀬の楮原橋③富士町中原の北川橋④川副町南里の中島橋。修繕工事は①三瀬村藤原の不動橋②三瀬村村の中村橋③富士町関屋の新小関橋④富士町の雄淵雌淵付近の小平橋⑤富士町松瀬の利休橋⑥大和町川上の巨石パーク南の渡月橋⑦本庄町末次の西八田橋⑧東与賀町下古賀の立野橋⑨蓮池町小松と蓮池町古賀を結ぶ古賀橋。

(質疑) 今後のスケジュールは。

(答弁) 修繕計画の58橋のうち、まだ着手していない38橋については、平成27年度以降、平成33年度までに修繕を完了したい。

① 一般会計補正予算中、継続費補正(変更) 教育費

(質疑) 学校改築等に係る工事請負契約についての消費税3%増に対応するための変更とのことだが、ことし4月から消費税が増税になることと4月以降に引き渡しになるということは計画でもわかっていたことである。それなのになぜ増税前の消費税率で入札をしていたのか。

(答弁) 政府の閣議決定、県から「消費税及び地方消費税の税率の改定に伴う契約事務等の処理について」の通知を受けて、平成25年10月1日から平成25年12月31日までの間に公告や指名通知を行って契約をし、引き渡しが平成26年4月1日以降になるものは、契約時に消費税5%で契約を行い、平成26年3月31日までの間に8%に変更契約をすることとした。

(質疑) 平成25年9月末までの締結で消費税増税の影響を回避できたのでは。

(答弁) 学校の状況により、校舎本体の工事は9月末までに契約を締結することが難しかった。校舎本体工事以外で9月末までに契約できるものは、それまでに契約を終えている。また、仮設校舎が必要でない場合など、状況により比較的早期に本体工事に着手できる場所は9月までに契約している。今後も可能な限り早期発注に努めたい。

② 一般会計予算中、バルーンミュージアム整備事業 5億7350万円

(質疑) 事業費の内訳は。

(答弁) マルキョウ佐賀店跡地とその東側の民有地の取得費として5億7076万1000円、測量や不動産鑑定評価を行う経費として273万3000円。

(質疑) 建物全体の活用方法は。

(答弁) 1階と2階はバルーンミュージアム、3階は青少年センター、4階はいろんな物をストックしておく場所と考えている。

(質疑) 東側の土地の活用方法は。

(答弁) スペースとしてはバルーンの係留体験が可能と思っており、非常に重要な要素であると考えている。バーナー音の問題などもあるので、周辺住民に丁寧に説明し、意見なども聞いて調整していく必要がある。

(質疑) この場所は青少年センターに適しているのか。

(答弁) バスなどの公共交通機関が利用しやすい場所であり、既存の建物が利用できる。また、現在の青少年センターの場所から近く、中央大通り沿いのわかりやすい場所にあり、駐車場の確保もできる。青少年の支援のため、連携を強化する必要がある国、県の青少年支援機関に徒歩で行ける距離でもある。

議 案 質 疑

（質疑）委託先はどのようなところか。

（答弁）委託事業者については、佐賀市の中心市街地の再生を図るという事業目的達成の観点から、佐賀市の状況とまちづくりの専門的な知見を有する業者に委託したいと考えている。

⑦ 一般会計予算中、道崎団地建替事業 6億3940万円

（質疑）道崎団地の間取りと戸数は。

（答弁）A棟は2DKが11戸、2LDKが2戸、3LDKが16戸の計29戸。B棟は、2DKが11戸、3LDKが18戸の計29戸。団地全体では、建てかえ前の40戸を18戸上回る58戸。

（質疑）兵庫団地の戸数は。

（答弁）平成26年度に設計に着手予定。現況では88戸住戸だが、これを上回る戸数を可能な限り確保していきたい。

（質疑）道崎団地の高齢者住宅、障がい者住宅は何戸か。

（答弁）特別に高齢者専用住宅は設けていない。各棟にエレベーターを設置し、住戸内の段差をなくしたバリアフリー化を施し、どのタイプであっても高齢者に配慮した設計となっている。障がい者用は、車いす専用住戸をA棟に2戸設けている。

（質疑）兵庫団地の高齢者住宅、障がい者住宅は何戸か。

（答弁）設計ができ上がっていない状態だが、嘉瀬団地や道崎団地と同様の考え方で設計し、高齢者や障がい者に配慮した建てかえを考えている。

（質疑）道崎団地の入居までのスケジュールは。

（答弁）住戸棟が平成26年8月末までに完成予定。前から入居していた21戸は10月に戻り入居を予定。新規に募集する残りの37戸は8月に入居者を募集して、10月の入居開始を予定。



⑤ 一般会計予算中、佐賀駅周辺再開発構想検討経費 318万円

（質疑）構想を検討するに至った背景や考え方は。

（答弁）佐賀駅周辺は佐賀の交通結節機能のかなめというべき役割を有しており、まちの顔といった面もある。佐賀駅周辺の活性化は非常に期待が大きいものと考えている。

（質疑）九州新幹線西九州ルート開業との関連は。

（答弁）新幹線の開業効果ありきを前提として検討を進めていくという認識はない。交通の利便性、にぎわいの観点からの集客力や回遊性、また観光、景観など、さまざまな視点から検討を始める経費として、予算案に計上している。一方、将来の新幹線開業に向けて、佐賀が単なる通過駅とならないよう存在感を示し、来訪者がふえるような魅力ある構想を考えていくことも重要と思っている。

（質疑）コンベンション誘致の構想もあるようだが、その考え方は。

（答弁）コンベンションの誘致は、多くの宿泊や飲食、物販など、市内の消費拡大に寄与することから経済効果が期待できる。また、交流人口の増加による地域の活性化など、さまざまな面からも有効な手段と考えている。

（質疑）市民にとって本当に必要なのはどのようなコンベンション施設なのかということ、よくリサーチする必要があると思うがどうか。

（答弁）何らかの形で市民の意見を聞きながら、計画に反映していくということは当然重要なプロセスと考えている。

⑥ 一般会計予算中、中央大通り再生計画策定経費 850万円

（質疑）計画策定の背景や考え方は。

（答弁）中央大通りは、佐賀駅から佐賀城公園に至る、いわば佐賀市の玄関口ともいえる通りである。しかし、老朽化した建物が散在し、空き店舗が目立つとともに、歩道に構築物が大きくはみ出した店舗が目立つなど、活性化に向けた取り組みが不可欠な状況と考えている。

（質疑）どういう手法で計画を策定するのか。

（答弁）地権者、商店街など、さまざまな関係者と幅広く協議をするために、中央大通り再生会議（仮称）を設置したい。そして、将来ビジョンや事業計画素案まで策定したい。